

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

第3059623号

(45) 発行日 平成11年(1999) 7 月13日

(24) 登録日 平成11年(1999) 3 月24日

(51) Int.Cl.<sup>8</sup>

識別記号

F I

C 0 9 J 7/04

C 0 9 J 7/04

D 2 1 H 27/30

D 2 1 H 27/32

27/32

G 0 9 F 3/10

Z

G 0 9 F 3/10

D 2 1 H 1/04

5/00

Z

評価書の請求 有 請求項の数 8 O L (全 6 頁)

続き有

(21) 出願番号 実願平10-9634

(73) 実用新案権者 000205306

大阪シーリング印刷株式会社

大阪府大阪市天王寺区小橋町 1 番25号

(22) 出願日 平成10年(1998)12月 4 日

(72) 考案者 松口 正

大阪市天王寺区小橋町 1 番25号 大阪シー

リング印刷株式会社内

(74) 代理人 弁理士 岡田 全啓

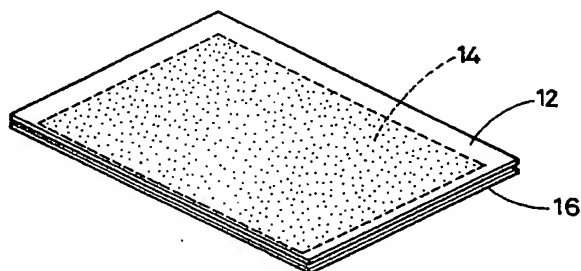
(54) 【考案の名称】 用 紙

(57) 【要約】

【課題】 挟まれても接着剤層が外にはみ出しにくい用紙を提供することである。

【解決手段】 用紙 1 0 は紙からなる矩形状かつシート状の基材 1 2 を含む。基材 1 2 の裏面において縁部分を除く矩形状の部分には、感圧接着剤や粘着剤からなる接着剤層 1 4 が形成される。基材 1 2 は、基材 1 2 と同じ大きさの剥離紙 1 6 の表面において縁部分を除く矩形状の部分に接着剤層 1 4 で剥離可能に接着される。

10



1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 シート状の基材、前記基材の裏面に形成される接着剤層、およびその表面に前記基材が前記接着剤層で剥離可能に接着される剥離紙を含む用紙において、

前記接着剤層は前記基材の裏面において縁部分を除く部分に形成され、さらに前記基材は前記接着剤層で前記剥離紙の表面において縁部分を除く部分に剥離可能に接着されることを特徴とする、用紙。

【請求項2】 前記基材、前記接着剤層および前記剥離紙は、それぞれ、平面的に見て矩形状に形成される、請求項1に記載の用紙。

【請求項3】 前記基材および前記剥離紙は、平面的に見て同じ大きさに形成される、請求項1または請求項2に記載の用紙。

【請求項4】 前記基材および前記剥離紙は、平面的に見て完全に重ねられる、請求項3に記載の用紙。

【請求項5】 前記基材の裏面において縁部分は、前記基材の裏面において縁から3mm内側までの部分であ

10

2

り、さらに前記剥離紙の表面において縁部分は、前記剥離紙の表面において縁から3mm内側までの部分である、請求項4に記載の用紙。

【請求項6】 前記接着剤層は、感圧型接着剤または粘着剤からなる、請求項1ないし請求項5のいずれかに記載の用紙。

【請求項7】 コピー用紙として用いられる、請求項1ないし請求項6のいずれかに記載の用紙。

【請求項8】 プリント用紙として用いられる、請求項1ないし請求項6のいずれかに記載の用紙。

【図面の簡単な説明】

【図1】この考案にかかる用紙の一例を示す斜視図である。

【図2】図1に示す用紙の断面図である。

【符号の説明】

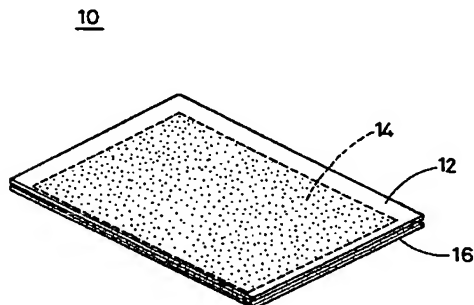
10 用紙

12 基材

14 接着剤層

16 剥離紙

【図1】



【図2】



フロントページの続き

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>

識別記号

F I

D 2 1 H 5/00

B

## 【考案の詳細な説明】

## 【0001】

## 【考案の属する技術分野】

この考案は用紙に関し、特に、シート状の基材の裏面がたとえば感圧型接着剤や粘着剤からなる接着剤層で剥離紙の表面に剥離可能に接着され、たとえばコピー用紙やプリンタ用紙などとして用いられる用紙に関する。

## 【0002】

## 【従来の技術】

コピー用紙やプリンタ用紙などとして用いられる従来の用紙には、シート状の基材の裏面全面に感圧型接着剤や粘着剤からなる接着剤層が形成され、その基材がその接着剤層で基材と同じ大きさの剥離紙の表面に剥離可能に接着されているものがあつた。

この用紙では、基材の表面にコピー機によってトナーで複写層が形成されたりプリンタによって印刷層が形成されたりするが、基材を接着剤層とともに剥離紙から剥離すれば、基材を接着剤層で他の物の表面に接着することができる。

## 【0003】

## 【考案が解決しようとする課題】

ところが、上述の従来の用紙では、基材の裏面全面に接着剤層が形成されているため、コピー機内でドラムなどに挟まれたりプリンタ内で送り用のローラなどに挟まれたりした場合に、接着剤層が基材および剥離紙の端から外にはみ出してしまう場合がある。この場合、用紙は、コピー機やプリンタのドラム、サーマルヘッド、ローラ、プラテン、ガイドなどにひっついて、折れ曲がったり破れたりしてしまうことがある。

## 【0004】

それゆえに、この考案の主たる目的は、挟まれても接着剤層が外にはみ出しにくい用紙を提供することである。

## 【0005】

## 【課題を解決するための手段】

この考案にかかる用紙は、シート状の基材と、基材の裏面に形成される接着剤

層と、その表面に基材が接着剤層で剥離可能に接着される剥離紙とを含む用紙において、接着剤層は基材の裏面において縁部分を除く部分に形成され、さらに基材は接着剤層で剥離紙の表面において縁部分を除く部分に剥離可能に接着されることを特徴とする、用紙である。

この考案にかかる用紙では、基材、接着剤層および剥離紙は、それぞれ、平面的に見て矩形状に形成されてもよい。

また、この考案にかかる用紙では、基材および剥離紙は、平面的に見て同じ大きさに形成されてもよい。この場合、基材および剥離紙は、平面的に見て完全に重ねられてもよい。さらに、基材の裏面において縁部分は、基材の裏面において縁から3mm内側までの部分であり、さらに剥離紙の表面において縁部分は、剥離紙の表面において縁から3mm内側までの部分であってもよい。

さらに、この考案にかかる用紙では、接着剤層は、たとえば感圧型接着剤または粘着剤からなる。

この考案にかかる用紙は、コピー用紙やプリンタ用紙などとして用いられる。

#### 【0006】

この考案にかかる用紙では、接着剤層が基材の裏面において縁部分を除く部分に形成され、さらに基材が接着剤層で剥離紙の表面において縁部分を除く部分に剥離可能に接着されているので、基材の裏面の縁部分および剥離紙の表面の縁部分には接着剤層が形成されていない。そのため、この考案にかかる用紙では、全体が挟まれても、接着剤層が基材および剥離紙の縁から外にはみ出しにくい。

#### 【0007】

この考案の上述の目的、その他の目的、特徴および利点は、図面を参照して行う以下の考案の実施の形態の詳細な説明から一層明らかとなろう。

#### 【0008】

##### 【考案の実施の形態】

図1はこの考案にかかる用紙の一例を示す斜視図であり、図2はその用紙の断面図である。この用紙10は、たとえば日本工業規格A列4番の大きさの矩形状かつシート状の基材12を含む。この基材12は、その表面にコピー機によってトナーで複写層を形成しやすくかつその表面にプリンタによって印刷層を形成し

やすいたたとえば紙などのシート状のものからなる。

【0009】

基材12の裏面には、たとえば感圧型接着剤や粘着剤からなる接着剤層14が形成される。この場合、接着剤層14は、基材12の裏面において縁からたとえば3mm内側までの縁部分を除く矩形の部分に形成される。

【0010】

また、基材12は、接着剤層14によって、たとえば日本工業規格A列4番の大きさの矩形の剥離紙16の表面に剥離可能に接着される。この場合、基材12は、剥離紙16の表面において縁からたとえば3mm内側までの縁部分を除く矩形の部分に接着剤層14で剥離可能に接着される。

【0011】

したがって、この用紙10では、平面的に見て、基材12および剥離紙16が完全に重ねられることになる。

【0012】

この用紙10では、基材12の表面にコピー機によってトナーで複写層が形成されたりプリンタによって印刷層が形成されたりするが、基材12および剥離紙16の縁部分に接着剤層14が形成されていないため、全体がコピー機内でドラムなどに挟まれたりプリンタ内で送り用のローラなどに挟まれたりしても、接着剤層14が基材12および剥離台紙16の端から外にはみ出しにくい。そのため、この用紙10は、コピー機やプリンタのドラム、サーマルヘッド、ローラ、プラテン、ガイドなどにひっつくにくく、それらにひっついて折れ曲がったり破れたりしにくい。

【0013】

なお、上述の用紙10では、日本工業規格A列4番の大きさの基材12および剥離紙が用いられているが、この考案では、たとえば日本工業規格B列4番の大きさなどの他の大きさの基材および剥離紙が用いられてもよい。

【0014】

【考案の効果】

この考案によれば、挟まれても接着剤層が外にはみ出しにくい用紙が得られる

。そのため、この考案にかかる用紙は、コピー機やプリンタのドラム、サーマルヘッド、ローラ、プラテン、ガイドなどにひっつくにくく、それらにひっついて折れ曲がったり破れたりしにくい。